

## 提婆品八箇の大事

第一 <sup>だいば だつた</sup>提婆達多の事 文句の八に云はく「本地は <sup>しょうりょう</sup>清涼にして迹に天熱を示す」と。

御義口伝に云はく、提婆とは本地は文殊なり、本地清涼と云ふなり。迹には提婆と云ふなり。迹に天熱を示す是なり。清涼は水なり、此は生死即涅槃なり。天熱は火なり、是は煩惱即菩提なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは煩惱即菩提・生死即涅槃なり。提婆は妙法蓮華經の別名なり。過去の時に <sup>あし せんじん</sup>阿私仙人なり。阿私仙人とは妙法の異名なり、阿とは無の義なり、無私の法とは妙法なり。文句の八に云はく「無私の法を以て衆生に <sup>そそ</sup>灑ぐ」と云へり。阿私仙人とは法界三千の別名なり。故に私無きなり。一念三千 <sup>これ</sup>之を思ふべし云云。

第二 <sup>にやく ふい が どうい せんぜつ</sup>若不違我 当為宣説の事

御義口伝に云はく、妙法蓮華經を宣説する事、汝は我に違はずして宣説すべしと云ふ事なり。 <sup>にやく</sup>若の字は汝なり。天台の云はく「法を受けて奉行す」と。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は、日蓮に違はず宣説すべきなり。阿私仙人とは南無妙法蓮華經なり云云。

第三 <sup>さい か ぎっすい じゅうしんせつじき</sup>採菓汲水 捨薪設食の事

御義口伝に云はく、採菓とは癡煩惱なり、汲水とは貪煩惱なり、捨薪とは瞋煩惱なり、設食とは慢煩惱なり。此の下に八種の給仕之有り。此の外に妙法蓮華經の伝受之無きなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは即ち千歳 <sup>せんざいきゅうじ</sup>給仕なり。是即ち一念三千なり。 <sup>とんじん ち まん</sup>貪瞋癡慢を対治するなり。

第四 <sup>じょうぞんみょうぼう こ しんじん む け げん</sup>情存妙法故 身心無懈倦の事

御義口伝に云はく、身心の二字色心妙法と伝受するなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉りて即身成仏す。 <sup>しんじん む け げん</sup>身心無懈倦とは一念三千なり云云。

第五 <sup>が お かいちゅう ゆいじょうせんぜつ みょうほ けきょう</sup>我於海中 唯常宣説 妙法華經の事

御義口伝に云はく、我とは文殊なり、海とは生死の海なり、唯とは <sup>ゆい いう いちじょうほう</sup>唯有一乘法なり、常とは <sup>じょうじゅうし せっぽう</sup>常住此説法なり、妙法華經とは法界の言語音声なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る是なり。生死の海即真如の大海なり。我とは法界の智慧なり、文殊なり云云。

## 第六 年始八歳の事

御義口伝に云はく、八歳とは八巻なり。提婆は地獄界なり、竜女は仏界なり。然る間十界互具百界千如一念三千なり。又云はく、八歳とは法華經八巻なり、我等八苦の煩惱なり。総じて法華經の成仏は八歳なりと心得べし。八苦は即ち八巻なり。八苦八巻即ち八歳の竜女と顯はるるなり。一義に云はく、八歳の事はたまをひらくと読むなり。歳とは竜女の一心なり、八とは三千なり、三千とは法華の八巻なり。仍って八歳とは開仏知見の所表なり。智慧利根より能至菩提まで法華に歸入するなり。此の中に心念口演とは口業なり、志意和雅とは意業なり、悉能受持深入禅定とは身業なり。三業即三徳なれば三諦法性なり。又云はく、心念とは一念なり、口演とは三千なり、悉能受持とは竜女法華經受持の文なり。歳とは如意宝珠なり、妙法なり、八とは色心を妙法と開くなり。

## 第七 言論未訖の事

御義口伝に云はく、此の文は無明即法性の明文なり。其の故は智積難問の言未だ訖はらざるに、竜女三行半の偈を以て答ふるなり。難問の意は別教の意なり、無明なり。竜女の答へは円教の意なり、法性なり。智積とは元品の無明なり、竜女とは法性の女人なり。仍って無明に即する法性、法性に即する無明なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは言論未訖なり。時とは上の事の末、末の事の始めなり。時とは無明法性同時の時なり。南無妙法蓮華經と唱へ奉る時なり。智積菩薩を元品の無明と云ふ事は不信此女の不信の二字なり。不信とは疑惑なり、疑惑を根本無明と云ふなり。竜女を法性と云ふ事は我闍大乘教の文なり。竜女とは竜は父なり、女は八歳の娘なり。竜女の二字は父子同時の成仏なり。其の故は時竜王女の文是なり。既に竜王の女と云ふ間、竜王は父なり、女とは八歳の子なり。されば女の成仏は此の品にあり。父の竜の成仏は序品に之在り。有八竜王の文是なり。然りと雖も父子同時の成仏なり。序品は一經の序なる故なり。又聞成菩提とは竜女が智積を責めたる言なり。されば唯我が成仏をば仏御存知あるべしとて、又聞成菩提唯仏当証知と云へり。苦の衆生とは別して女人の事なり。此の三行半の偈は一念三千の法門なり。遍照於十方とは十界なり。殊には此の八歳の竜女の成仏は帝王持經の先祖たり。人王の始めは神武天皇なり。神武天皇は地神五代の第五の鵜萱尊不合尊の御子なり。此の萱不合尊は豊玉姫の子なり。此の豊玉姫は沙竭羅竜王の女なり。八歳の竜女の姉なり。然る間先祖は法華經の行者なり。甚深甚深云云。されば此の提婆の一品は一天の腰刀なり。無明煩惱の敵を切り生死愛著の繩

を切る秘法なり。漢高三尺の劍も一字の智劍に及ばざるなり。妙の一字の智劍を以て生死煩惱の繩を切るなり。提婆は火炎を顯はし、竜女は大蛇を示し、文殊は智劍を顯はすなり。仍って不動明王の尊形と口伝せり。提婆は我等が煩惱即菩提を顯はすなり。竜女は生死即涅槃を顯はすなり。文殊をば此には妙徳と翻ずるなり。煩惱生死具足して当品の能化なり。

第八 有一宝珠の事 文句の八に云はく「一には珠を献じて円解を得ることを表はす」と。

御義口伝に云はく、一とは妙法蓮華經なり、宝とは妙法の用なり、珠とは妙法の体なり、妙の故に心法なり、法の故に色法なり。色法は珠なり、心法は宝なり。妙法とは色心不二なり。一念三千を所表して竜女宝珠を奉るなり。釈に「円解を得るを表はす」と云ふは一念三千なり。竜女が手に持てる時は性得の宝珠なり。仏受け取り玉ふ時は修得の宝珠なり。中に有るは修性不二なり。甚疾とは頓極・頓速・頓証の法門なり、則為疾得無上仏道なり。神力とは、神は心法なり。力とは色法なり。觀我成仏とは、舍利弗の竜女が成仏と思ふは僻事なり。我が成仏ぞと觀ぜよと責めたるなり。觀に六即の觀之有り。爰元の觀は名字即の觀と心得べきなり。其の故は南無妙法蓮華經と聞ける處を「一念に道場に坐して成仏虚しからざるなり」と云へり。變成男子とは竜女も本地南無妙法蓮華經なり。其の意經文に分明なり。